

# 大潮だより

# まる 円山 やま

第19号

発行年月日  
平成24年12月1日

発行者  
大潮の里を守る会



## 大潮・里のつどいを開催

「大潮の里をまもる会」が活動を始めから3年になることから、今までの活動を振り返るとともに、今後の活動の方向を検討するため、去る10月28日、ご来賓をお迎えし、旧大潮小学校で「大潮・里のつどい」を開催しました。

当日は地区内外から100名余りの参加があり、東京から大潮や全国の過疎地域の研究をされている全国町村会の調査部長の坂本 誠先生をお迎えし、今後の活動のあり方について、「指導いただき、地域づくりについて共通認識を持つとともに、協力を誓い合いました。」  
合わせて、予ねて募集をしていた「大潮の里フォトコンテスト」の入賞作品の表彰式をおこないました。

また、各教室を使って手づくり博物館も開き、農具・生活用具や地区の皆さんの手による作品の展示もしました。  
(2～3ページに詳しい記事)

寄稿

## 帰郷して思うこと

鹿野下

賀谷 守さん



広島でのサラリーマン生活にピリオドを打ち、昨年生まれ育ったふる里に帰ってきました。  
サラリーマン時代は品質/コスト/納期/安全 etc を考慮した業務に追われ、ストレス社会でしたが、ふる里に帰って思うことは冬の寒さをちょっと我慢すれば空気がきれい、人情が厚い、美味しいお米や野菜が食べられる等、これまでと違った環境で、のんびりとした年金生活を送っています。  
その中において私は大潮の里をまもる会にできる限り時間をとり参加させてもらっています。  
子供の頃通っていた旧大潮小学校やその周辺は、見違える様になっていました。川沿いは竹やぶで川の水は洪水の時しか見えない光景でしたが、地元の皆さんやファンクラブの方々のご努力により、今では錦川の清流が望める桜並木となり、ホテルのシーズンになると近隣から沢山の見物客が訪れる見事なホテルの里となっていました。  
また、田舎の店の知名度も高く、近場の温泉地で「田舎の店の豆腐は美味しいから帰りには必ず立ち寄る」との声をよく聞きます。  
最近では、新聞やTV等マスコミでも紹介され、軽食サロンもオープンし更なる集客が期待できます。  
わたしも、これらの情報を励みに、微力ながらまもる会の活動にご協力できればと思っています。  
最後に、大潮の里をまもる会が今以上に活動の場を広げ、大潮の活性化のために活躍されることをねがっています。  
みなさん、良きふる里を大切に残していきましょう。

## お達磨さん紹介

片山

石川 恵章さん



今回は片山の石川恵章さんを訪問しました。  
石川さんは昭和5年12月5日生まれの81歳だそうですが、とてもお元気で、お尋ねしたときも草刈りをされていまして、訪問したときも、お酒は少しも飲まないとのことですが、趣味をお尋ねすると、グランドゴルフが得意で、下松や下関方面まで遠征されるそうです。  
もう一つは、軽トラックに乗って色々な所を見物して回ること、山口県内は殆んど

行かないところはなくらいですが、最近中国5県を周る九州は、博多から別府まで足を伸ばされたとのこと、タフなことには全く恐れ入ります。  
きつと多くの見聞を広められてこられたことでしょうか。  
これからは交通事故には十分気を付けて、ゆつくりとドライブを楽しんでください。  
そしてこれからの人生も急がずあわてず、マイペースで大いに楽しんでください。

## 初めての経験 「体験型教育旅行」 受け入れ

今年、周南市の斡旋で初めておこなわれた体験型教育旅行は、大津島、須金、大道理、鹿野で受け入れをしました。  
鹿野では大潮と洪川が、徳山の今宿小学校6年生の子供さんの受け入れをしました。  
が、大潮では4戸の家庭に14人が宿泊し、各家庭のメニユーにあわせて簡単な農作業や野菜の収穫、魚釣りなどで自分達が収穫した野菜を使って夕ご飯の準備をしたり



キュウリの植え付け

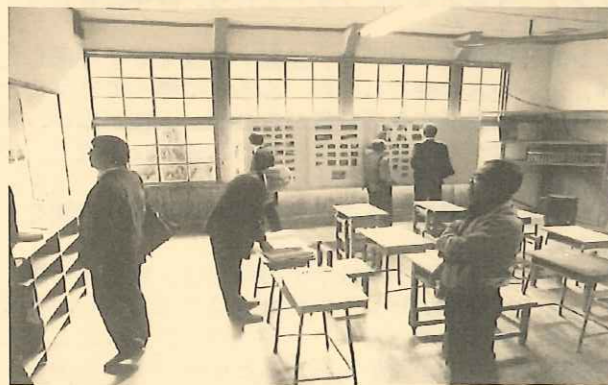
## 編集後記

しました。  
次の日のお昼ご飯は4戸が共同でソーメン流しをし、和やかな雰囲気の内にも、有意義な交流をしました。  
子供さんたちは田舎での生活が体験でき、大変喜んで帰られました。受け入れ側も久しぶりに子供さんたちとのふれあいの時間が持てて、楽しい1日でした。  
今年も残すところ1ヶ月足らずになり、残り残したことはないか？あれを片付けておかねばと何かとせわしない気持ちになってきます。  
何時もは11月に発行している「円山」ですが、10月に「大潮里のつどい」をおこなったため、1ヶ月遅れの発行となりました。  
したがって本号の内容はほとんど里のつどいに関係するものばかりです。  
本会の活動も間もなく3年になりますが、坂本先生の講演の内容を噛み締め、役員同様に協力し頑張るつもりです。  
「協力のほどお願いいたします。」  
間もなく迎える新しい年が、皆様にとりましてより良い年になりますようお祈りします。

1

# 大潮・里のつどい

## 盛大に開催



**往時を偲ばせる教室**

大潮小学校には、子供たちの使っていた机・椅子などの備品は殆んどありませんので、公民館などに保存されていたものを運び込みました。また、研究授業等の資料や写真のほか、数はそろいませんでしたが各期の卒業写真なども展示し、懐かしい教室を再現しました。



### 懐かしい農機具

大潮地域のみなさんが、大切に保存されていた沢山の農機具などを展示した部屋では、実際に使っていたお年寄りや、使い方の分からない若い人など、「これ使いたいよ」との「これ何するもの？」などの声が聞かれました。



### 生活用具

こちらの部屋は、今は殆んど使われなくなったお膳や食器（漆器）、水瓶に味噌甕、猫コタツ、ゼンマイ仕掛の蓄音機にSP盤レコード。少し新しい真空管式のラジオやテレビ、はたまた自作の無線機など、時代が感じられるものから、今でも使えるものまで見応えがありました。

## 旧小学校は手づくり博物館

里のつどいにあわせて、旧大潮小学校の校舎を「手づくり博物館」にして地区内の皆さんからご提供いただいた、農機具や生活用具、手芸品や盆栽、大潮の見どころ写真などを展示したり、なつかしい教室を再現して来場者に「ご覧戴きました」。



### 立派な作品に びっくり

大潮地区の皆さんの作品展の部屋には、「こんな立派なものを作る人が大潮にいるの」とみなさんびっくりされるような竹細工やわら細工、手芸品に盆栽などが所狭しと並べられ、皆さん垂涎の眼差しでご覧になっていました。こんなに素晴らしい「博物館」、もっと多くの皆さんに観ていただきたいので、残念ながら、展示用品の借り入れ期限の都合で一日限りで閉館しました。何時かまたゆっくり開館したいものです。

### 行事の内容を順に 並べてみました

#### フォトコンテスト 入賞者を表彰

開会セレモニーに続いて、かねて募集していた第二回大潮の里フォトコンテストの入賞作品の表彰をおこない、応募のあった51点の中から最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点に選ばれた方々に、賞状と賞品を贈りました。



今回は山口市や下松市などの地区外からも立派な作品の応募がありました。ちなみに、最優秀賞は周南市周陽の高橋好弘さんが、夏

の交流事業のとき、水遊びに興じる子供さんを撮影された「水の中からピース！」とする作品でした。

#### 二年間の活動報告を しました。

続いて、大潮の里をまもる会が発足してから2年間の活動を振り返るため、スライドショーをバックに、まもる会の4部会と田舎の店、ファーム大潮の代表が活動の内容を報告し、会場の皆さんからご意見をいただきました。



### 坂本誠先生の 講演を聞きました。



#### ○お話のあらすじ

これからの地域づくりに大事な力

- 1 認め合う力  
地域には多様な人材がいる！  
それぞれの能力や努力が認められる社会、活躍できる場をつくること。
- 2 つながる力  
集落同士・地域外とつながる力  
集落活動を大事にしなが  
ら、大潮ファンクラブや意  
外に近くにいる他出者と協

#### 最後に皆で 大会宣言をしました。



力しながら、大潮の里をまもる会や、ファーム大潮の活動を育てていこう。

3 変り続ける力  
何もかも変えるのではない。  
我々を育んできた地域や風土は変らないし、変えてはならない。  
一方、地域を取り巻く環境が変り続けている中で、自己変革を忘れた地域は取り残される。  
時代の流れに沿って変っていかなければならないが、変えるべきところ、変えてはならないところの峻別が必要。  
私たちに大いに参考になる素晴らしい講演でした。